

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究  
総合研究報告書

小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂

研究分担者 清水俊明 順天堂大学小児科 教授

研究要旨：令和2～4年度にかけて小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂を各年度ごとに行った。特に生物学的製剤の使用法については、その小児適用も含めこの1年での小児に対する臨床試験や国内外での使用経験の報告をもとに、小児に推奨できる用法用量、副作用報告、使用上の注意点などについての追記・改訂を成人の治療指針の改訂と歩調を合わせて行った。加えて予防接種に関するコメントの修正とトランジションについての解説・チェックリストの追加も行った。今後も現在実施中である新規生物学的製剤の臨床試験結果を up to date に小児潰瘍性大腸炎およびクローン病の治療指針に反映させていくことが重要と思われた。

共同研究者

共同研究者

虻川大樹（宮城県立こども病院総合診療科・消化器科）

新井勝大（国立成育医療センター消化器科/小児炎症性腸疾患センター）

水落建輝（久留米大学小児科）

清水泰岳（国立成育医療センター消化器科/小児炎症性腸疾患センター）

熊谷秀規（自治医科大学小児科）

内田恵一（三重県立総合医療センター小児外科）

井上幹大（藤田医科大学小児外科）

工藤孝広（順天堂大学小児科）

石毛崇（群馬大学小児科）

岩間達（埼玉県立小児医療センター消化器・肝臓科）

国崎玲子（横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患センター）

渡辺憲治（兵庫医科大学炎症性腸疾患センター内科）

長沼誠（関西医科大学内科学第三講座）

中村志郎（大阪医科薬科大学第二内科）

久松理一（杏林大学消化器内科）

A. 研究目的

新規生物学的製剤を含む IBD 治療薬の小児潰瘍性大腸炎・クローン病の治療における位置づけ、用法用量を含む使用法を検討し、現在の治療指針を改訂することで、小児 IBD 患者に対する治療のさらなる適正化を目指す。

B. 研究方法

2019、2020、2021年に作成された小児潰瘍性大腸炎治療指針・小児クローン病治療指針をもとに、新規生物学的製剤を含む IBD 治療薬の、小児に対する臨床試験や使用経験の報告を参考に小児適用の有無、小児に推奨できる用法用量、副作用報告、使用上の注意点などについて追記・改訂を進める。検討には、小児科医、外科医、内科医がかかわり、小児の特色に配慮しつつも、小児期から成人期への移行をみすえた、一貫性のある治療指針の作成に取り組んでいく。同時に治療指針全体のなかで、栄養療法プロジェクトや外科治療のプロジェクトとも連携をとり、改訂が必要な部分の検討を行っていく。

（倫理面への配慮）

本研究において倫理面での配慮を要する部分

は多くないが、倫理面において問題が生じる可能性がある場合は、十分に配慮したうえで研究を進めていく。

### C. 研究結果

(小児潰瘍性大腸炎治療指針)

—令和2年度—

1. 小児 UC に対する生物学的製剤の使用において、現在小児適用がある薬剤はインフリキシマブ (6 歳以上) のみであり、その他の生物学的製剤に対する記述を変更した。

2. 劇症例に対する治療をフローチャートに加えた。

3. ステロイド抵抗例および依存例に対する治療のフローチャートにベドリズマブ、ウステキヌマブ、トファシチニブを加え、ステロイド漸減中止が困難な場合は外科治療を考慮することを加えた。

4. 薬用量の決め方を「原則として体重換算」から「原則として体重もしくは体表面積をもとに換算」とした。

5. 免疫抑制療法を開始する前に麻疹、風疹、ムンプス、水痘などのワクチンを未罹患・未接種の場合は接種しておくことに関して、「免疫抑制療法を開始する 4 週間以上前に、該当する生ワクチンの接種を完了しておくことが望ましい」とした。

6. 移行期医療 (トランジション) に関して、『トランジション (移行期治療)』は、小児診療科から成人診療科への移り変わりに伴う意図的かつ計画的な一連の取り組み (プロセス) である。『トランスファー (転科)』は成人診療科への引き渡しポイントであり、トランジションの一部である。患者が自分の身体や IBD を理解して自分で説明したり決定したりする能力、いわゆるヘルスリテラシーを獲得することが重要である。こうした患者は、その後もアドヒアランスが良好で合併症が少ないことが報告されている。一方、患者、保護者、小児診療科および

成人診療科スタッフの間で、トランジションに対する認識や態度が異なり、トランジションの妨げになることがある。トランジションのプロセスにおいては、こうした相違点を明らかにして、時間をかけて調整を図っていくことが大切である」という記述を追加し、チェックリストを掲載した。

—令和3年度—

1. 小児 UC に対する生物学的製剤の使用において、小児適用がある薬剤はインフリキシマブ (6 歳以上) のみであったが、アダリムマブが 2021 年 9 月 27 日から保険承認され表 1 に示すアンダーラインの部分を変更した。

表1 アダリムマブの改訂案

40kg以上の小児では、初回160mgの皮下注射を行い、初回投与1週間後及び2週後に80mgの皮下注射を行う。初回投与4週後以降は、40mgを毎週1回又は80mgを2週に1回の皮下注射を寛解維持療法として行う。
25kg以上40kg未満の小児では、初回80mgの皮下注射を行い、初回投与1週間後及び2週後に40mgの皮下注射を行う。初回投与4週後以降は、20mgを毎週1回又は40mgを2週に1回の皮下注射を寛解維持療法として行う。
15kg以上25kg未満の小児では、初回40mgの皮下注射を行い、初回投与1週間後及び2週後に20mgの皮下注射を行う。初回投与4週後以降は、20mgを2週に1回の皮下注射を寛解維持療法として行う。
2021年9月に、15kg以上の小児患者に対する適用が承認された。

2. ゴリムマブ、ベドリズマブ、ウステキヌマブおよびトファシチニブについても表 2、3、4、5 のアンダーラインの部分を変更・追加した。

表2 ゴリムマブの改訂案

45kg以上の小児では初回200mgの皮下注を行い、2週間後に100mgの皮下注を行う。初回投与6週後以降は100mgの皮下注を4週間ごとに寛解維持療法として行う。
45kg未満の小児では初回115mg/m <sup>2</sup> (最大200mg) の皮下注を行い、2週間後に60mg/m <sup>2</sup> (最大100mg) の皮下注を行う。初回投与6週後以降は60mg/m <sup>2</sup> (最大100mg) の皮下注を4週間ごとに寛解維持療法として行う。
小児への適用は承認されておらず、現時点ではインフリキシマブおよびアダリムマブの二次無効例もしくは不耐例に対して考慮される。
現在、小児潰瘍性大腸炎に対する国際共同試験が進行中である (日本は不参加)。

表3 ベドリズマブの改訂案

小児における用量はまだ確立されていないが、小児クローン病を対象とした欧州のガイドラインでは、体重40kg以上の小児に対しては、成人と同様に1回300mgの点滴静注が、より低体重の小児には、体重換算（6mg/kg）、もしくは標準的な成人の体表面積が1.73m<sup>2</sup>であることを考慮して体表面積換算（173mg/m<sup>2</sup>）での投与（最大量300mg）が提示されている。

用法は、成人における標準的な用法（初回投与後2週、6週に投与し、以降8週間隔で点滴静注）が適用される。

国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児では抗TNF-α抗体製剤の一次無効例、二次無効例、不耐例に対して考慮される。

現在、日本も参加している小児潰瘍性大腸炎に対する国際共同試験が進行中である。

表4 ウステキマブの改訂案

小児における用量はまだ確立されていないが、小児クローン病を対象とした欧州のガイドラインでは、初回点滴静注は6mg/kgを目安として設定し（最大520mg）、皮下注射は成人（標準的な体表面積は1.73m<sup>2</sup>）で90mg投与されることを考慮して体表面積換算（52mg/m<sup>2</sup>）での投与（最大量90mg）が提示されている。

用法については、成人における標準的な用法（初回点滴静注後、8週目に皮下注射し、以降12週間隔で皮下注射、効果減弱例では8週間隔に短縮可能）が適用される。

国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児では抗TNF-α抗体製剤の一次無効例、二次無効例、不耐例に対して考慮される。

現在、日本も参加している小児潰瘍性大腸炎に対する国際共同試験が進行中である。

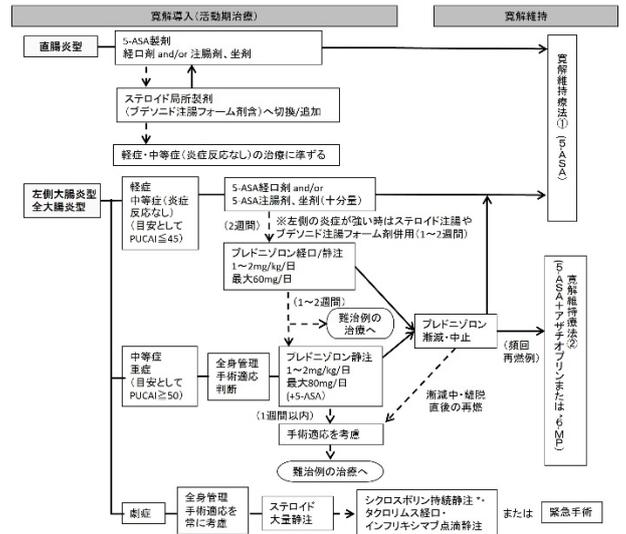
表5 トファシチニブの改訂案

国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児に対する使用経験や報告は国内外とも少ない。小児への用法・用量については、経験豊富な医師へのコンサルトが勧められる。

現在、日本も参加している小児潰瘍性大腸炎に対する国際共同試験が進行中である。

3. 小児潰瘍性大腸炎治療フォローチャートは、成人UCの改訂に合わせて改訂を行い（図1）。

図1 小児潰瘍性大腸炎 治療フローチャート



—令和4年度—

1. 生物学的製剤において表6の下線に示す通り、バイオシミラーの記載を追加した。ただしアダリムマブBSは小児に保険適用となっていないため、インフリキシマブの項のみ追加した。

表6 バイオミラーの追加

インフリキシマブ（レミケード®）：用法、用量は成人と同様で、寛解導入療法では5mg/kgを0、2、6週で点滴静注し、以後8週毎に同量を維持投与する。6歳以上の小児患者に対する適用が承認されているが、投与量や投与間隔は同じである。

2. 低分子化合物としてトファシチニブに加えフィルゴチニブとウパダシチニブの記載を追加した（表7）。

表7 低分子化合物の追加

- トファシニブ（ゼルヤンツ®）**：国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児に対する使用経験や報告は国内外とも少ない。小児への用法・用量については、経験豊富な医師へのコンサルトが勧められる。現在、日本も参加している小児潰瘍性大腸炎に対する国際共同試験が進行中である。
- フィルゴチニブ（ジセレカ®）**：国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児に対する使用経験や報告は国内外とも少ない。小児への用法・用量については、経験豊富な医師へのコンサルトが勧められる。
- ウパダシニブ（リンヴォック®）**：国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児に対する使用経験や報告は国内外とも少ない。小児への用法・用量については、経験豊富な医師へのコンサルトが勧められる。

3. その他としてカロテグラストメチルの記載を追加した（表8）。小児では、臨床データや保険適用がないこと、作用機序と副作用を考慮し、「使用は推奨しない」と記載した。

表8 その他の追加

- カロテグラストメチル（カログラ®）**：成人の中等症患者に対して、日本でのみ保険適用となっている経口のα4インテグリン阻害薬である。進行性多巣性白質脳症（PML）の潜在的なリスクがあるため、寛解導入療法のみで使用し、最大でも6か月までの使用となっている。国内外とも小児への適用は承認されておらず、小児の臨床データもない。これらの点を考慮すると、現時点では小児に対する使用は推奨しない。

4. 小児潰瘍性大腸炎治療フローチャートは、成人UCと異なり、カロテグラストメチルを組み込まないため、令和3年度版から変更はなかった。一方、小児潰瘍性大腸炎難治例の治療は成人UCの改訂に合わせて大幅に改訂を行い、JAK阻害薬を増やし、血球成分除去療法の維持期に5-ASAを追加した（図2）。

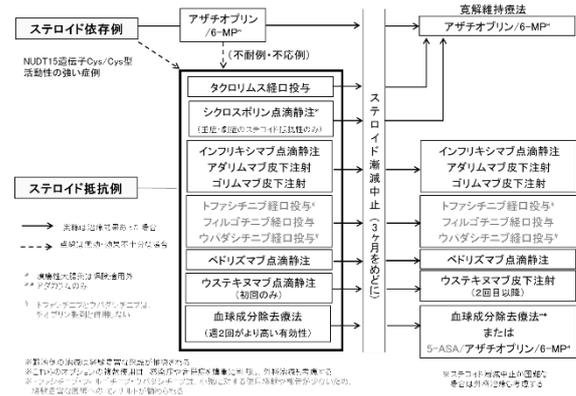


図2 小児潰瘍性大腸炎治療フローチャート

（小児クローン病治療指針）

—令和2年度—

1. ウステキヌマブについては、小児への用量について、現時点では海外でも小児に適用が承認されていない状況に鑑み用量の記載を削除した。
2. ベドリズマブについて、「小児の用法・用量については、経験豊富な医師へのコンサルトが勧められる」の一文を加えて、フローチャートにベドリズマブを追加した。
3. 栄養療法の原則について、「寛解期の経腸栄養療法としては、全摂取カロリーの30～70%を経腸栄養剤で摂取する。長期にわたり経腸栄養療法を行う場合には、使用する栄養剤によっては必須脂肪酸やビタミン類（カルニチン等）・微量元素（セレン等）が欠乏しうることに留意し、経静脈的な脂肪乳剤の補充（1～2g/kg/日、週1～2回）や、ビタミン類・微量元素の評価や補充を検討する」と一部記述の変更を行った。
4. 薬用量の決め方を「原則として体重換算」から「原則として体重もしくは体表面積をもとに換算」とした。
5. 免疫抑制療法を開始する前に麻疹、風疹、ムンプス、水痘などのワクチンを未罹患・未接種の場合は接種しておくことに関して、「免疫抑制療法を開始する4週間以上前に、該当する生ワクチンの接種を完了しておくことが望ましい」

とした。

### 6. 移行期医療（トランジション）に関して、

『トランジション（移行期治療）』は、小児診療科から成人診療科への移り変わりに伴う意図的かつ計画的な一連の取り組み（プロセス）である。『トランスファー（転科）』は成人診療科への引き渡しポイントであり、トランジションの一部である。患者が自分の身体やIBDを理解して自分で説明したり決定したりする能力、いわゆるヘルスリテラシーを獲得することが重要である。こうした患者は、その後もアドヒアランスが良好で合併症が少ないことが報告されている。一方、患者、保護者、小児診療科および成人診療科スタッフの間で、トランジションに対する認識や態度が異なり、トランジションの妨げになることがある。トランジションのプロセスにおいては、こうした相違点を明らかにして、時間をかけて調整を図っていくことが大切である」という記述を追加し、チェックリストを掲載した。

### 一令和3年度一

1. 2021年 ECCO-ESPGHAN の小児クローン病ガイドラインが改訂された。従来の ECCO-ESPGHAN のガイドラインと比較し、これまでは、全ての小児患者において、栄養療法を重要視する姿勢だったが、予後不良予測因子を有する患者では、抗 TNF $\alpha$  抗体製剤をトップダウンまたは早い段階で積極的に導入する形に変更され、治療開始後も内視鏡・便中カルプロテクチン・MRE 等を用いた効果判定を行い、薬物血中濃度や抗薬物抗体の有無に基づいた治療の適正化の重要性が強調された。ベドリズマブ、ウステクヌマブの小児に対する薬用量は確立されていないものの、目安となる投与量が提示された

また、欧州のガイドラインにおける「予後不良因子」を有する患者は、「ハイリスク患者」として、Topdown ではないものの、「早期の抗 TNF $\alpha$  抗体製剤導入の検討」を推奨している。

以上を考慮したうえで、図4に示すように小児クローン病治療フローチャートを改訂した。またフローチャートの脚注として図に示す a~h を追記した。

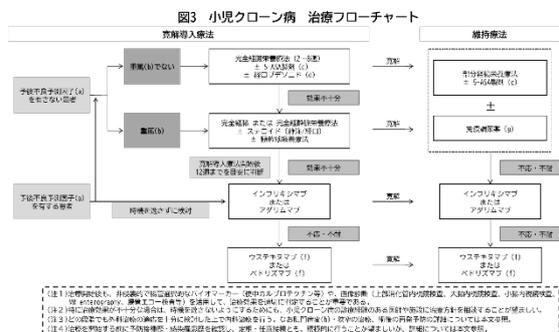


図4 小児クローン病 治療フローチャート・脚注

- a. 以下の予後不良予測因子を有する患者は、早期の抗TNF $\alpha$ 製剤導入を検討する
- | Paris classification <sup>1)</sup> | 追加のリスク因子 | リスク | 考慮される治療   |
|------------------------------------|----------|-----|---|
| B1+G1                              | 炎症型      | 中等  | 完全経腸栄養療法<br>+抗TNF $\alpha$ 製剤導入検討                 |
| B1+[L3+L4]                         | 炎症型      | 高   | 早期の抗TNF $\alpha$ 製剤導入検討                           |
| B1+p                               | 炎症型      | 高   | 早期の抗TNF $\alpha$ 製剤導入検討<br>+抗腫瘍・外科治療              |
| B2                                 | 狭窄型      | 高   | 早期の抗TNF $\alpha$ 製剤導入検討                           |
| B2                                 | 狭窄型      | 高   | 腸管切除術<br>+抗腫瘍・外科治療                                |
| B3                                 | 穿通型      | 高   | 腸管切除術<br>+抗腫瘍・外科治療<br>+術後、早期の抗TNF $\alpha$ 製剤導入検討 |
- b. 重要な場合とは以下1-5のいずれかの場合である
1. 頻回 (6回/日以上) の激しい下痢、下血、腹壁を伴い経腸栄養が困難
  2. 消化管出血が持続
  3. 20%以上の体重減少、腸管外症状 (関節炎、結核性紅斑、炎症性腸炎、口内炎など) により責任が強く、安否の全身管理を要する
  4. 著しい栄養障害がある
  5. PCDAM70 (またはCDAM450) 以上
- c. 5-ASA製剤は、経経腸栄養導入・寛解維持薬として選択されるが、クローン病に対する有効性を示す証拠はない
- d. 経口プレズニド (プレズニド腸溶性顆粒カプセル) は、完全経腸栄養療法が困難な回盲部疾患に対して使われることがある
- e. 小児でのウステクヌマブ・ベドリズマブの使用経験は少なく、インフリキシマブ・アダリムマブの必須例・不対例に対して使用を検討する
- f. 免疫調節薬 (チオプリン製剤) の安全性について、患者・家庭に十分説明した上で使用されるべきである
- g. 肛門病変、瘻孔にメトロナゾールやシプロフロキサシンの併用が有用な場合がある

### 2. 表9に示す文章を追加することにより治療開始後の再評価 (T2T) の概念を導入した。

表9 小児クローン病治療指針の治療原則

9) 治療開始後も、症状や血液検査所見の改善のみならず、非侵襲的で腸管選択的なバイオマーカー (便中カルプロテクチン等) を活用しながら、炎症腸管の画像診断 (上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、小腸内視鏡検査、MRE、腸管エコー検査等) を行って、治療効果を適切に判定することが重要である。

小児の成長や発達、心理社会的側面への対応、親やきょうだいの支援も含め、小児のクローン病診療に精通した医師・メディカルスタッフによる診療が行われることが望ましい。

10) 治療開始後の治療反応性が不十分な症例、ステロイド抵抗性/依存性の症例、重篤な腸管外合併症 (重篤な関節炎、壊疽性膿皮症など) を有する症例には、抗TNF $\alpha$ 抗体製剤の適応や外科手術の適応について検討する

### 3. 新規生物学的製剤の用法用量の目安を表10、11に示す通り提示した。

表10 ウステキヌマブの改訂案

国内外とも小児クローン病患者への適用は承認されていない。小児では主に抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤無効例もしくは不耐例に対して考慮される。  
 小児の用法は、成人における標準的な用法(初回点滴静注後、8週目に皮下注し、以降12週間隔で皮下注、効果減弱例では8週間隔に短縮可能)が適用される。  
 小児の用量は、まだ確立されていないが、小児を対象とした欧州のガイドラインでは、初回点滴静注は6mg/kgを目安(最大520mg)とし、皮下注は標準的な成人の体表面積(1.73m<sup>2</sup>)を参考に、成人用量の90mgを体表面積で換算した52mg/m<sup>2</sup>が提示(最大90mg)されている。  
 現在、日本も参加している小児に対するグローバル治験が進行中である。

表11 ベドリズマブの改訂案

国内外とも小児クローン病患者への適用は承認されていない。小児では主に抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤無効例もしくは不耐例に対して考慮される。  
 小児の用法は、成人における標準的な用法(初回投与後、2週、6週に投与し、以降8週間隔で点滴静注)が適用される。  
 小児の用量は、まだ確立されていないが、小児を対象とした欧州のガイドラインでは、体重40kg以上の小児に対しては、成人と同様に1回300mgの点滴静注が、より低体重の小児には、体重換算(6mg/kg)、もしくは標準的な成人の体表面積(1.73m<sup>2</sup>)を参考に、成人用量の300mgを体表面積で換算した173mg/m<sup>2</sup>での投与(最大量300mg)が提示されている。  
 現在、日本も参加している小児に対するグローバル治験が進行中である。

—令和4年度—

1. 生物学的製剤において、表6の下線に示す通り、小児UCと同様にIFXのバイオシミラーの記載を追加した。リサンキズマブが成人クローン病に保険適用となったが、小児への保険適用はなく使用経験も限られている点を表12に示す通り記載した。

表12 生物学的製剤の追加

**リサンキズマブ (スキリージ®)**  
 国内外とも小児クローン病患者への適は承認されておらず、現在のところ、小児における使用経験は限られている。

2. 抗菌薬では、成人クローン病の治療指針の改訂に合わせて下線に示す通り副作用に関する記

載を追記した(表13)。またシプロフロキサシンが小児禁忌とされる添付文書上の根拠を下線の通り追記した。さらにメトロニダゾールやシプロフロキサシンを痔瘻や肛門周囲膿瘍に使用する際の注意点を記載した。

3. その他の新規治療薬として、テデュグルチドとダルバドストロセルを表14に示す通り追加した。

表13 抗菌薬の副作用や注意点の追記

**メトロニダゾール (フラジール®など)**  
 15mg/kg/日：分2または分3経口(成人の目安量500~750mg/日)。適応症に偽膜性腸炎を含む感染性腸炎が含まれる。小児等に対する安全性は確立されていない(使用経験がない)。末梢神経障害、味覚障害、中枢神経障害(めまい、ふらつき)などの副作用に注意する。

**シプロフロキサシン (シプロキサ®など)**  
 20mg/kg/日：分2経口か点滴静注(最大量400mg/日) 動物実験で関節毒性が認められ、15歳未満の小児では禁忌とされる。治療上の有益性を十分に考慮する必要がある。

痔瘻・肛門周囲膿瘍に対して、メトロニダゾール(保険適用外)やシプロフロキサシンが有効なことがある。副作用に注意し、漫然と投与しないようにする。治療反応不良例や生物学的製剤を導入する際には、外科にコンサルトし、シートン法や切開排膿の適応を検討することも重要である。詳細はクローン病肛門部病変に対する外科治療指針を参照。

表14 その他の新規治療薬

①テデュグルチド（レベスティブ®）

成人と同様に小児でも腸管切除などに伴い短腸症候群を合併しうる。腸管切除後の順応期間を経ても継続的な経静脈サポートが必要な患者の中で、経静脈的な栄養投与量や補液量が安定した、あるいはそれ以上低減することが困難と判断された患者に対して使用を検討する。投与量は1日1回0.05mg/kgを皮下注射する。なお、体重10kg未満の患者に用いる0.95mg製剤の発売が予定されているが、体重10kg以上で用いる3.8mg製剤とは注射液量が異なるので注意する。また、修正月齢4か月未満の小児を対象とした臨床試験は実施されていない。

投与中は有効性の評価を断続的に行い、小児では投与6ヶ月、成人では12ヶ月後に有効性を判断し、投与継続の必要性を検討する。

②ダルバドストロセル（アロフィセル®注）（ヒト体性幹細胞加工製品）

既存治療で効果のない複雑痔瘻に対して、成人では、適正治療指針を遵守したうえで、要件を満たす施設及び医師のもとで使用可能となった。

国内外とも、小児クローン病患者への適用は承認されておらず、現在のところ小児における使用経験は限られている。現在、日本も参加している小児に対する国際共同試験が進行中である。

D. 考察

現在多くの生物学的製剤に小児適用はないが、実臨床ではこれらの薬剤を使用することが少なくないのが現状である。一方で、アダリムマブは2021年9月から小児の用法用量が承認され、トファシチニブ、ウステキヌマブ、ミリキスマブに関しても global study が開始されている。今後、これらの臨床試験の結果を up to date に小児潰瘍性大腸炎およびクローン病の治療指

針に反映させていくことが重要と思われた。

また、各種ワクチン接種の安全性や有効性などに関するエビデンスを集約したエキスパートステートメントの英語論文化や理想的なトランジションを実行していくためのコンセンサステートメントの英語論文化なども、小児領域における活動として行った。

E. 結論

学的製剤の使用法を中心に小児潰瘍性大腸炎・クローン病治療指針の改訂を行った。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- Arai K, Kunisaki R, Kakuta F, Hagiwara SI, Murakoshi T, Yanagi T, Shimizu T, Kato S, Ishige T, Aomatsu T, Inoue M, Saito T, Iwama I, Kawashima H, Kumagai H, Tajiri H, Iwata N, Mochizuki T, Noguchi A, Kashiwabara T, Suzuki Y, Hirano Y, Fujiwara T: Phenotypic characteristics of pediatric inflammatory bowel disease in Japan: results from a multicenter registry. *Intest Res*,2020;18:412-420.
- Uchiyama K, Haruyama Y, Shiraishi H, Katahira K, Abukawa D, Ishige T, Tajiri H, Uchida K, Uchiyama K, Washio M, Kobashi E, Maekawa A, Okamoto K, Sairenchi T, Imamura Y, Ohhira S, Hata A, Kobashi G: Association between Passive Smoking from the Mother and Pediatric Crohn's Disease: A Japanese Multicenter Study. *Int J Environ Res Public Health*,2020;17:2926-2935.
- Tatsuki M, Hatori R, Nakazawa T, Ishige T, Hara T, Kagimoto S, Tomomasa T, Arakawa H, Takizawa T: Serological cytokine signature in

- paediatric patients with inflammatory bowel disease impacts diagnosis. *Sci Rep*,2020;10:14638.
- Kitajima T, Okita Y, Kawamura M, Kondo S, Toiyama Y, Uchida K, Kusunoki M: The relationship between preoperative T helper cytokines in the ileal mucosa and the pathogenesis of pouchitis. *BMC Gastroenterol*,2020;20:277.
  - Kudo T, Fujii T, Maisawa SI, Sasaki M, Uchida K, Ida S, Kagimoto S, Yoden A, Shimizu T: A Multicenter Prospective Survey on Early-Onset Inflammatory Bowel Disease in Japan. *Digestion*,2020;18:1-9.
  - Arai K: Very Early-Onset Inflammatory Bowel Disease: A Challenging Field for Pediatric Gastroenterologists. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr*,2020;23(5):411-422.
  - Takeuchi I, Kawai T, Nambu M, Migita O, Yoshimura S, Nishimura K, Yoshioka T, Ogura M, Kyodo R, Shimizu H, Ito S, Kato M, Onodera M, Hata K, Matsubara Y, Arai K: X-linked inhibitor of apoptosis protein deficiency complicated with Crohn's disease-like enterocolitis and Takayasu arteritis: A case report. *Clin Immunol*,2020;217:108495.
  - Takeuchi I, Kaburaki Y, Arai K, Shimizu H, Hirano Y, Nagata S, Shimizu T: Infliximab for Very Early-Onset Inflammatory Bowel Disease: A Tertiary Center Experience in Japan. *J Gastroenterol Hepatol*,2020;35:593-600
  - Watanabe K, Tanida S, Inoue N, Kunisaki R, Kobayashi K, Nagahori M, Arai K, Uchino M, Koganei K, Kobayashi T, Takeno M, Ueno F, Matsumoto T, Mizuki N, Suzuki Y, Hisamatsu T: Evidence-based diagnosis and clinical practice guidelines for intestinal Behçet's disease 2020 edited by Intractable Diseases, the Health and Labour Sciences Research Grants. *J Gastroenterol*,2020;55:679-700.
  - Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Arai K, Ito R, Kawai T, Ito S: Prospective study of live attenuated vaccines for patients receiving immunosuppressive agents. *PLoS One*,2020;15:e0240217.
  - Yoshida M, Takeuchi I, Shoji K, Miyairi I, Arai K: Bacillus Calmette-Guérin Cervical Lymphadenitis in a 6-Year-Old Boy on Infliximab for Inflammatory Bowel Disease. *Pediatr Infect Dis J*,2020;39:e242-e244.
  - Fujisaki T, Matsuishi T, Kamizono J, Amamoto M, Mizuochi T: Crohn's disease and chronic recurrent multifocal osteomyelitis in a Japanese boy. *Pediatr Int. Pediatr Int*,2021;63:115-117.
  - Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi KI, Ishihara J, Obara H, Kakuma T, Kurei S, Yamashita Y, Mitsuyama K: Antibodies to Crohn's disease peptide 353 as a diagnostic marker for pediatric Crohn's disease: a prospective multicenter study in Japan. *J Gastroenterol*,2020;55:515-522.
  - Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T. Transitional care for inflammatory bowel disease: A survey of Japanese pediatric gastroenterologists. *Pediatr Int*,2021; 63:65-71.
  - Kumagai H, Suzuki Y, Shimizu T: Transitional Care for Patients with Inflammatory Bowel Disease: Japanese Experience. *Digestion*,2021;102:18-24.
  - Takeuchi I, Arai K, Kyodo R, Sato T, Tokita K, Hirano Y, Shimizu H: Ustekinumab for children and adolescents with inflammatory bowel disease at a tertiary children's hospital in Japan. *J Gastroenterol Hepatol*, 2021;36:125-

130.

- Shimizu H, Arai K, Takeuchi I, Minowa K, Hosoi K, Sato M, Oka I, Kaburaki Y, Shimizu T: Long-term durability of infliximab for pediatric ulcerative colitis: a retrospective data review in a tertiary children's hospital in Japan. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr*, 2021;24:7–18.
- Tatsuki M, Ishige T, Igarashi Y, Hatori R, Hokama A, Hirato J, Muise A, Takizawa T, Arakawa H: Whipple disease mimicking inflammatory bowel disease. *Intest Res*,2021;19:119–125.
- Taniguchi K, Inoue M, Arai K, Uchida K, Migita O, Akemoto Y, Hirayama J, Takeuchi I, Shimizu H, Hata K: Novel TNFAIP3 microdeletion in a girl with infantile-onset inflammatory bowel disease complicated by a severe perianal. *Hum Genome Var*, 2021;8:1.
- Kudo T, Arai K, Uchida K, Tajiri H, Hokari R, Suzuki Y, Shimizu T: Very early-onset inflammatory bowel disease in Japan: A nationwide survey. *J Gastroenterol Hepatol*,2021;36:151–155.
- Ando K, Fujiya M, Watanabe K, Hiraoka S, Shiga H, Tanaka S, Iijima H, Mizushima T, Kobayashi T, Nagahori M, Ikeuchi H, Kato S, Torisu T, Kobayashi K, Higashiyama M, Fukui T, Kagaya T, Esaki M, Yanai S, Abukawa D, Naganuma M, Motoya S, Saruta M, Bamba S, Sasaki M, Uchiyama K, Fukuda K, Suzuki H, Nakase H, Shimizu T, Iizuka M, Watanabe M, Suzuki Y, Hisamatsu T. A nationwide survey concerning the mortality and risk of progressing severity due to arterial and venous thromboembolism in inflammatory bowel disease in Japan. *J Gastroenterol* 56:1062–1079,2021
- Aoyama N, Shimizu T. Approach to the Seamless Management of Inflammatory Bowel Disease, Considering Special Situations, Shared Decision-Making, and Disease Burden. *Digestion* 102:12–17,2021
- Arai N, Kudo T, Tokita K, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T. Effectiveness of Biological Agents in the Treatment of Pediatric Patients with Crohn's Disease and Anal Fistulae *Digestion* 102:783–788,2021
- Croft NM, Faubion WA Jr, Kugathasan S, Kierkus J, Ruemmele FM, Shimizu T, Mostafa NM, Venetucci M, Finney-Hayward T, Sanchez Gonzalez Y, Bereswill M, Lazar A, Turner D. Efficacy and safety of adalimumab in paediatric patients with moderate-to-severe ulcerative colitis (ENVISION D): a randomised, controlled, phase 3 study. *Lancet Gastroenterol Hepatol* 6:616–627,2021
- Ito N, Takeuchi I, Kyodo R, Hirano Y, Sato T, Usami M, Shimizu H, Shimizu T, Arai K. Features and Outcomes of Children with Ulcerative Colitis who Undergo a Diagnostic Change: A Single-Center Experience. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr* 24:357–365,2021
- Jimbo K, Okuno T, Ohgaki R, Nishikubo K, Kitamura Y, Sakurai Y, Quan L, Shoji H, Kanai Y, Shimizu T, Yokomizo T. Correction: A novel mutation in the SLCO2A1 gene, encoding a prostaglandin transporter, induces chronic enteropathy. *PLoS One* 16:e0247691,2021
- Kato M, Jimbo K, Nagata M, Endo Y, Kashiwagi K, Maruyama K, Ito N, Tokushima K, Arai N, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Inage E, Ikuse T, Fukunaga H, Kudo T, Shimizu T. Novel pediatric granulomatosis with polyangiitis with a marked bloody pericardial effusion and bloody stool: a case report *Allergy Asthma Clin Immunol* 17:124,2021
- Kudo T, Abukawa D, Nakayama Y, Segawa O,

- Uchida K, Jimbo K, Shimizu T. Nationwide survey of pediatric gastrointestinal endoscopy in Japan. *J Gastroenterol Hepatol* 36:1545–1549,2021
- Kudo T, Arai K, Uchida K, Tajiri H, Hokari R, Suzuki Y, Shimizu T. Very early-onset inflammatory bowel disease in Japan: A nationwide survey. *J Gastroenterol Hepatol* 36:151–155,2021
  - Kudo T, Fujii T, Maisawa SI, Sasaki M, Uchida K, Ida S, Kagimoto S, Yoden A, Shimizu T. A Multicenter Prospective Survey on Early-Onset Inflammatory Bowel Disease in Japan. *Digestion* 102:368–376,2021
  - Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T. Transitional care for inflammatory bowel disease: A survey of Japanese pediatric gastroenterologists. *Pediatr Int* 63:65–71,2021
  - Kumagai H, Suzuki Y, Shimizu T. Transitional care for patients with inflammatory bowel disease: Japanese experience. *Digestion* 102:18–24,2021
  - Miura M, Shimizu H, Saito D, Miyoshi J, Matsuura M, Kudo T, Hirayama D, Yoshida M, Arai K, Iwama I, Nakase H, Shimizu T, Hisamatsu T. Multicenter, cross-sectional, observational study on Epstein-Barr viral infection status and thiopurine use by age group in patients with inflammatory bowel disease in Japan (EBISU study). *J Gastroenterol* 56:1080–1091,2021
  - Shimizu H, Arai K, Takeuchi I, Minowa K, Hosoi K, Sato M, Oka I, Kaburaki Y, Shimizu T. Long-Term Durability of Infliximab for Pediatric Ulcerative Colitis: A Retrospective Data Review in a Tertiary Children's Hospital in Japan. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr* 24:7–18,2021
  - Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi KI, Ishihara J, Obara H, Kakuma T, Kurei S, Yamashita Y, Mitsuyama K: Diagnostic accuracy of serum proteinase 3 antineutrophil cytoplasmic antibodies in children with ulcerative colitis. *J Gastroenterol Hepatol*,2021;36:1538–1544.
  - Inoue M, Uchida K, Matsushita K, Koike Y, Toiyama Y: Incisional negative pressure wound therapy for perineal wound in Crohn's disease. *Pediatr Int*, 2021;63:475–477.
  - Okita Y, Ohi M, Kitajima T, Shimura T, Yamamoto A, Fujikawa H, Okugawa Y, Matsushita K, Koike Y, Inoue M, Uchida K, Toiyama Y: Clinical Discrimination of Chronic Pouchitis After Ileal Pouch-Anal Anastomosis in Patients with Ulcerative Colitis. *J Gastrointest Surg*, 2021;25:2047–2054.
  - Kamei K, Miyairi I, Shoji K, Arai K, Kawai T, Ogura M, Ishikura K, Sako M, Nakamura H: Live attenuated vaccines under immunosuppressive agents or biological agents: survey and clinical data from Japan. *Eur J Pediatr*, 2021;180:1847–1854.
  - Kumagai H, Shimizu T, Iwama I, Hagiwara SI, Kudo T, Takahashi M, Saito T, Kunisaki R, Uchino M, Hiraoka S, Naganuma M, Sugimoto K, Miyoshi J, Shibuya T, Hisamatsu T. A consensus statement on health-care transition for childhood-onset inflammatory bowel disease patients. *Pediatr Int* 64:e15241. 2022
  - Kudo T, Jimbo K, Shimizu H, Iwama I, Ishige T, Mizuochi T, Arai K, Kumagai H, Uchida K, Abukawa D, Shimizu T. Qing-Dai for pediatric ulcerative colitis multicenter survey and systematic review. *Pediatr Int* 64:e15113.

2022

- Shimizu H, Ebana R, Kudo T, Sato T, Hara T, Hosoi K, Usami M, Yoshida M, Takeuchi I, Nakase H, Iwama I, Arai K, Shimizu T. Both fecal calprotectin and fecal immunochemical tests are useful in children with inflammatory bowel disease. *J Gastroenterol* 57:344–356. 2022
  - Hosoi K, Minowa K, Suzuki M, Kudo T, Ohtsuka Y, Tomomasa T, Tajiri H, Ishige T, Yamada H, Arai K, Yoden A, Ushijima K, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Takeuchi K, Shimizu T. Characteristics and frequency of pediatric inflammatory bowel disease-associated pancreatitis: A Japanese nationwide survey. *JPGN Reports* 3:e162. 2022
  - Kyodo R, Takeuchi I, Narumi S, Shimizu H, Hata K, Yoshioka T, Tanase-Nakao K, Shimizu T, Arai K. Novel biallelic mutations in the DUOX2 gene underlying very early-onset inflammatory bowel disease: A case report. *Clin Immunol* 238:109015. 2022
  - Tokita K, Shimizu H, Takeuchi I, Shimizu T, Arai K. Long-term efficacy and safety of golimumab for ulcerative colitis at a pediatric inflammatory bowel disease center in Japan. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr* 25:461–472. 2022
  - Arai N, Kudo T, Tokita K, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T. Expression of oncogenic molecules in pediatric ulcerative colitis. *Digestion* 103:150–158. 2022
  - Ishihara J, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Yasuda R, Sakaguchi H, Konishi KI, Obara H, Kakuma T, Yamashita Y, Mizuoichi T. Serum zinc and selenium in children with inflammatory bowel disease: A multicenter study in Japan. *Dig Dis Sci* 67:2485–2491. 2022
  - Muramoto Y, Nihira H, Shiokawa M, Izawa K, Hiejima E, Seno H. Japan Pediatric Inflammatory Bowel Disease Working Group. Japan pediatric inflammatory bowel disease working group: Anti-integrin  $\alpha v \beta 6$  antibody as a diagnostic marker for pediatric patients with ulcerative colitis. *Gastroenterology* 163:1094–1097.e14. 2022
  - Tsuchiya M, Hashimoto R, Arai K, Yoshida K. Psoriasiform dermatitis in a girl with ulcerative colitis receiving vedolizumab. *J Dermatol* 49:e191–e192. 2022
  - Kobayashi M, Takeuchi I, Kubota M, Ishiguro A, Arai K. Severe hip arthritis as an initial presenting symptom of pediatric ulcerative colitis. *Pediatr Int* 64:e15067. 2022
  - Usami M, Takeuchi I, Kyodo R, Hirano Y, Kashiwagi K, Fujikawa H, Shimizu H, Kawai T, Arai K. Clinical features of very early-onset inflammatory bowel disease in Japan: a retrospective single-center study. *Intest Res* 20:475–481. 2022
  - Morita M, Takeuchi I, Kato M, Migita O, Jimbo K, Shimizu H, Yoshimura S, Tomizawa D, Shimizu T, Hata K, Ishiguro A, Ari K. Intestinal outcome of bone marrow transplantation for monogenic inflammatory bowel disease. *Pediatr Int* 64 :e14750,2022
2. 学会発表
- Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T. Paediatric gastroenterologists' views on transitional care: Results from a Japanese survey. The 6th World Congress of the Pediatric Gastroenterology

- Hepatology And Nutrition, Copenhagen, Denmark, 誌面発表. 2020.6.2-5.
- Sato M, Jimbo K, Ito N, Tokita K, Arai N, Yoshimura R, Kyodo R, Miyata E, Hosoi K, Ikuse T, Kudo T, Ohtsuka Y, Shimizu T. A study of colonoscopy based lesional progression in Japanese paediatric patients with ulcerative colitis. The 6th World Congress of the Pediatric Gastroenterology Hepatology And Nutrition, Copenhagen, Denmark, 誌面発表. 2020.6.2-5.
  - Jimbo K, Arai N, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Kudo T, Ohtsuka Y, Shimizu T. The effectiveness of transperineal ultrasonography on the evaluation of paediatric ulcerative colitis. The 6th World Congress of the Pediatric Gastroenterology Hepatology And Nutrition, Copenhagen, Denmark, 誌面発表. 2020.6.2-5.
  - Kasai Y, Hisata K, Toyama Y, Nakano S, Igarashi N, Matsunaga N, Okawa N, Nishizaki N, Komatsu M, Kantake M, Obinata K, Shimizu T. The prophylactic antimicrobial therapy criteria for very-low-birth-weight infants promote appropriate antimicrobial therapy. European Society for Paediatric Infectious Diseases, Web 開催. 2020.10.26-29.
  - Toyama Y, Hisata K, Kasai Y, Nakano S, Igarashi N, Matsunaga N, Komatsu M, Shimizu T. Molecular epidemiology of methicillin-sensitive staphylococcus aureus in neonatal intensive care unit. 38th Annual Meeting of the ESPID, Rotterdam, The Netherlands, Web 開催. 2020.10.28.
  - Arai K. Endoscopy in PIBD, APPSPGHAN Pediatric Inflammatory Bowel Disease Masterclass, Web 開催. 2020.11.6
  - Arai K. Personalized treatment in pediatric IBD. Asian Organization for Cohn's and Colitis 2020, Web 開催. 2020.12.17
  - 神保圭佑, 柏木項介, 伊藤夏希, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 当科における潰瘍性大腸炎様の内視鏡像を呈した VEO-IBD (VEO-UC)に関する検討. 第 20 回日本小児 IBD 研究会, 東京. 2020.2.2.
  - 石毛崇, 新井勝大, 工藤孝広, 江口英孝, 竹内一朗, 西澤拓哉, 神保圭佑, 岡崎康司, 清水俊明. 国内における遺伝性炎症性腸疾患疑い症例の診断体制構築のための研究. 第 20 回日本小児 IBD 研究会, 東京. 2020.2.2.
  - 佐藤真教, 神保圭佑, 工藤孝広, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 吉村良子, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 大塚宜一, 清水俊明. 当科における小児期発症の潰瘍性大腸炎 (UC)の病型進行に関する検討. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会, 姫路. 2020.2.7.
  - 石毛崇, 新井勝大, 工藤孝広, 神保圭佑, 竹内一朗, 西澤拓哉, 清水俊明. 「炎症性腸疾患: シームレスなアプローチを目指して」-Special situation におけるこれからの課題: 疾病負荷 (Disease burden)を含めて-VEO-IBD(早期発症型炎症性腸疾患)における遺伝子解析を通じた IBD 病態解明と新規治療の開発. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会, 姫路. 2020.2.7.
  - 熊谷秀規, 清水俊明, 工藤孝広, 内田恵一, 国崎玲子, 杉田昭, 大塚宜一, 新井勝大, 窪田満, 田尻仁, 鈴木康夫. 「炎症性腸疾患: シームレスなアプローチを目指して」-Special situation におけるこれからの課題: 疾病負荷 (Disease burden)を含めて- 小児期発症炎症性腸疾患患者のトランジション. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会, 姫路. 2020.2.7.
  - 新井喜康, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬

- 圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明. 小児潰瘍性大腸炎における癌関連分子発現についての検討. 第 123 回日本小児科学会学術集会, 神戸(web 開催). 2020.8.21-23.
- ・ 神保圭佑, 柏木項介, 伊藤夏希, 徳島香央里, 時田万英, 丘逸宏, 吉村良子, 新井喜康, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 小児潰瘍性大腸炎に対する経会陰式超音波検査の有効性に関する検討. 第 123 回日本小児科学会学術集会, 神戸(web 開催). 2020.8.21-23.
  - ・ 細井賢二, 柏木項介, 伊藤夏希, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 丘逸宏, 佐藤真教, 京戸玲子, 宮田恵理, 箕輪圭, 幾瀬圭, 神保圭佑, 鈴木光幸, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 小児炎症性腸疾患関連膵炎の検討. 第 123 回日本小児科学会学術集会, 神戸(web 開催). 2020.8.21-23.
  - ・ 亀井宏一, 庄司健介, 河合利尚, 新井勝大, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 中村秀文, 石倉健司, 宮入烈. 免疫抑制薬下での弱毒生ワクチン接種 全国実態調査および多施設共同前向き研究. 第 123 回日本小児科学会学術集会, 兵庫, 2020.8.22
  - ・ 内田恵一, 熊谷秀規, 清水俊明, 工藤孝広, 国崎玲子, 杉田昭, 大塚宜一, 新井勝大, 窪田満, 田尻仁, 鈴木康夫. 小児 IBD 患者のトランジションについてのアンケート調査. 第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京(web 開催). 2020.9.19-21.
  - ・ 細井賢二, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 当科の小児炎症性疾患患者におけるメサラジン不耐症の検討. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催. 2020.10.23-25.
  - ・ 宮田恵理, 工藤孝広, 時田万英, 新井喜康, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明. 当科の小児 IBD 患者における EB ウイルス抗体保有率の検討. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催. 2020.10.24.
  - ・ 井上幹大, 内田恵一, 長野由佳, 松下航平, 小池勇樹, 大北喜基, 問山裕二. 重症心身障がい児に合併した炎症性腸疾患に対する外科的治療. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催. 2020.10.23-25.
  - ・ 柏木項介, 藤川皓基, 宇佐美雅章, 竹内一郎, 清水泰岳, 新井勝大. 慢性肉芽腫症関連消化管病変の内視鏡検査所見の検討. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催, 2020.10.24
  - ・ 平野友梨, 清水泰岳, 竹内一郎, 新井勝大. 思春期の炎症性腸疾患患者における QOL およびメンタルヘルスの縦断的調査研究. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催, 2020.10.24
  - ・ 竹内一郎, 京戸玲子, 清水泰岳, 宇佐美雅章, 藤川皓基, 柏木項介, 新井勝大. 全エクソーム解析では診断に至らなかった IL-10 シグナル異常を呈する超早期発症型炎症性腸疾患の女児 2 例. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催. 2020.10.24
  - ・ 宇佐美雅章, 竹内一郎, 京戸玲子, 平野友梨, 柏木項介, 藤川皓基, 清水泰岳, 新井勝大. 国立成育医療研究センターにおける超早期発症型炎症性腸疾患の臨床的検討. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催, 2020.10.24
  - ・ 福嶋健志, 倉信奈緒美, 村上潤, 竹内一郎, 新井勝大. リンパ球性汎下垂体炎と IgA 腎症を発症した超早期発症型炎症性腸疾患の一例. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, web 開催, 2020.10.24
  - ・ 石毛崇, 新井勝大, 工藤孝広, 江口英孝, 竹内一郎, 西澤拓哉, 神保圭佑, 岡崎康司, 清水俊明. 遺伝子学的情報と結びついた早期発症型炎症性腸疾患レジストリシステムの構築. 第 28

回日本消化器関連学会週間 JDDW 2020  
KOBE, web 開催. 2020.11.5-8.

- ・ 井上幹大, 内田恵一, 長野由佳, 松下航平, 小池勇樹, 大北喜基, 問山裕二. 小児炎症性腸疾患患者の術前骨格筋量と手術部位感染との関連に関する検討. 第 33 回日本外科感染症学会総会学術集会, web 開催. 2020.11.27-28.
- ・ 伊藤夏希, 神保圭佑, 遠藤佳子, 戸田方紀, 柏木項介, 永田万純, 丸山紀三子, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 丘逸宏, 佐藤真教, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. 当科における monogenic IBD 症例の経過について. 第 11 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, web 開催. 2020.12.5.
- ・ 工藤孝広, 神保圭佑, 清水泰岳, 岩間達, 石毛崇, 水落建輝, 新井勝大, 熊谷秀規, 内田恵一, 虻川大樹, 清水俊明. 小児期発症炎症性腸疾患に対する青黛の使用調査. 第 11 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, web 開催. 2020.12.5.
- ・ 平野友梨, 板橋道朗, 齋藤武, 内田恵一, 井上幹大, 新井勝大, 石原寛子, 鬼澤理沙, 水口恵美子, 平山敦大, 荒木謙太郎, 木村英明, 国崎玲子. 大腸全摘出を受けた潰瘍性大腸炎患者の手術に対する心理的受容の検討. 第 11 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, web 開催, 2020.12.5
- ・ 京戸玲子, 竹内一朗, 清水泰岳, 秦健一郎, 中尾佳奈子, 鳴海覚志, 新井勝大: Dual Oxidase 2 遺伝子の新規変異が同定された超早期発症型炎症性腸疾患の一例. 第 11 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, web 開催, 2020.12.5
- ・ 竹内一朗, 船山理恵, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 宇佐美雅章, 清水泰岳, 野村伊知郎, 岩間達, 清水俊明, 新井勝大. 成分栄養剤を主体とした栄養管理を要する乳幼児における栄養素欠乏の探索的研究. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, web 開催. 2021.2.7
- ・ 新井勝大, 南部隆亮, 村越孝次, 国崎玲子, 工藤孝広, 水落建輝, 角田文彦, 齋藤武, 岩田直美, 加藤沢子, 井上幹大, 熊谷秀規, 野口篤子, 石毛崇, 萩原真一郎, 佐々木美香, 田尻仁, 吉年俊文, 西亦繁雄, 青松友槻, 望月貴博, 戸板成昭, 清水泰岳, 岩間達, 平野友梨, 清水俊明. 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究 2020: 診断時情報. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, web 開催, 2021.2.7
- ・ 藤川皓基, 清水泰岳, 柏木項介, 宇佐美雅章, 竹内一朗, 新井勝大. 難治性下痢で発症し血球貧食症候群を契機に家族性血球貧食性リンパ組織球症 5 型と診断した一例. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, web 開催, 2021.2.7
- ・ 新井勝大. 小児クローン病治療指針. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, web 開催, 2021.2.7
- ・ Inoue M, Hiro J, Uchida K, Matsushita K, Koike Y, Okita Y, Toiyama Y. Outcome of Reduced Port Laparoscopic Versus Open Restrictive Proctocolectomy for UC in Children. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜(web 開催). 2021.3.10-13.
- ・ 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳. 治療指針・ガイドラインの改訂 小児 IBD 治療指針の改訂. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 第 2 回総会. 2022.1.27
- ・ 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳. 治療指針・ガイドラインの改訂 小児 IBD 治療指針の改訂. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 第 1 回総会. 2021.7.15
- ・ 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳. 治療指針・ガイドラインの改訂 小児 IBD 治療指針の改訂. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 第 2 回総会. 2022.1.27

- ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 戸田方紀, 永田万純, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. Crohn 病様腸炎と低身長を呈した XIAP 欠損症の兄弟例. 第 17 回日本消化管学会総会学術集会, ハイブリッド開催(大阪). 2021.2.19-20.
- ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明. 当科における小児期発症炎症性腸疾患に対する生物学的製剤の有効性と安全性の検討. 第 48 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(松本). 2021.10.1-3.
- ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明. 小児期発症 IBD 患者に対する生物学的製剤の有効性と安全性. 第 12 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリッド開催(東京). 2021.11.26.
- ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. 当科で経験した monogenic IBD の内視鏡・病理所見の特徴. 第 12 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリッド開催(東京). 2021.11.26.
- ・ 伊藤夏希, 神保圭佑, 遠藤佳子, 戸田方紀, 柏木項介, 永田万純, 丸山起三子, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 清水俊明. Infliximab により薬剤誘発性ループスを合併した Crohn 病の 1 例. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2021.2.7.
- ・ 遠藤佳子, 神保圭佑, 柏木項介, 永田万純, 丸山起三子, 伊藤夏希, 徳島香央里, 新井喜康, 佐藤真教, 幾瀬圭, 工藤孝広, 清水俊明. 急性 EB ウイルス感染症を発症した潰瘍性大腸炎の 1 例. 第 48 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(松本). 2021.10.2
- ・ 丸山起三子, 神保圭佑, 柏木項介, 伊藤夏希, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 工藤孝広, 清水俊明. 潰瘍性大腸炎の寛解導入中に脳静脈洞血栓症を発症した 1 例. 第 48 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(松本). 2021.10.1-3
- ・ 宮田恵理, 工藤孝広, 遠藤佳子, 戸田方紀, 丸山起三子, 永田万純, 柏木項介, 徳島香央里, 伊藤夏希, 時田万英, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 佐藤真教, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明. 小児 IBD 患者における EB ウイルス抗体保有率の検討. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2021.2.7.
- ・ 京戸玲子, 工藤孝広, 戸田方紀, 丸山起三子, 永田万純, 柏木項介, 徳島香央里, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 新井喜康, 丘逸宏, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明. 小児 Crohn 病患者における小腸カプセル内視鏡検査の有用性・安全性の検討. 第 124 回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催(京都). 2021.4.16.
- ・ 工藤孝広, 新井勝大, 内田恵一, 田尻仁, 穂刈量太, 鈴木康夫, 清水俊明. 超早期発症型炎症性腸疾患の疫学的全国調査. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2021.2.7.
- ・ 工藤孝広, 神保圭佑, 清水泰岳, 岩間達, 石毛崇, 水落建輝, 新井勝大, 熊谷秀規, 内田恵一, 虻川大樹, 清水俊明. 小児潰瘍性大腸炎における青黛使用に関する多施設調査. GI Week 2021, Web 開催. 2021.2.19.
- ・ 佐藤真教, 工藤孝広, 戸田方紀, 永田万純, 柏木項介, 徳島香央里, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 新井喜康, 丘逸宏, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明. IBS モデルラットを用いた小腸蠕動

- 運動の検討. 第 124 回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催(京都). 2021.4.16.
- ・ 秋谷梓, 高橋健, 秋本智史, 細野優, 井福真由美, 磯武史, 神保圭佑, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. ストレイン解析を用いた小児期発症炎症性腸疾患患者の左室機能評価. 第 12 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリッド開催(東京). 2021.11.26.
  - ・ 秋谷梓, 高橋健, 秋本智史, 細野優, 井福真由美, 磯武史, 矢崎香奈, 神保圭佑, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 層別ストレイン解析を用いた小児から若年成人までの炎症性腸疾患患者の左室機能評価. 第 124 回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催(京都). 2021.4.16.
  - ・ 秋谷梓, 高橋健, 秋本智史, 細野優, 井福真由美, 磯武史, 矢崎香奈, 神保圭佑, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 層別ストレイン・ストレインレートによる小児期発症炎症性腸疾患患者の左室機能評価. 第 57 回日本小児循環器学会総会・学術集会, ハイブリッド開催(奈良). 2021.7.9.
  - ・ 新井喜康, 神保圭佑, 丸山起三子, 伊藤夏希, 徳島香央里, 佐藤真教, 関口玲子, 明本由衣, 幾瀬圭, 工藤孝広, 矢野智則, 清水俊明. 小腸に病変が局限し SLC02A1 関連慢性腸症との鑑別を要した好酸球性胃腸炎の 1 例. 第 48 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(松本). 2021.10.3.
  - ・ 新井勝大, 南部隆亮, 村越孝次, 国崎玲子, 工藤孝広, 水落建輝, 角田文彦, 齋藤武, 岩田直美, 加藤沢子, 井上幹大, 熊谷秀規, 野口篤子, 石毛崇, 萩原真一朗, 佐々木美香, 田尻仁, 吉年俊文, 西亦繁雄, 青松友槻, 望月貴博, 戸板成昭, 清水泰岳, 岩間達, 平野友梨, 清水俊明, 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究グループ. 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究 2020 診断時情報. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2021.2.7.
  - ・ 神保圭佑, 戸田方紀, 柏木項介, 永田万純, 丸山紀三子, 伊藤夏希, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 清水俊明. 潰瘍性大腸炎様の内視鏡像を呈した超早期発症型炎症性腸疾患 (VEO-IBD)に関する検討. 第 17 回日本消化管学会総会学術集会, ハイブリッド開催(大阪). 2021.2.19-20.
  - ・ 清水泰岳, 江花涼, 工藤孝広, 岩間達, 細井賢二, 竹内一朗, 新井勝大, 清水俊明. 小児炎症性腸疾患における便中カルプロテクチン・便中ヘモグロビンの有用性に関する多施設共同前方視研究. 第 12 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリッド開催(東京). 2021.11.26.
  - ・ 竹内一朗, 船山理恵, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 宇佐美雅章, 清水泰岳, 野村伊知郎, 岩間達, 清水俊明, 新井勝大. 成分栄養剤を主体とした栄養管理を要する乳幼児における栄養素欠乏の探索的研究. 第 21 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2021.2.7.
  - ・ 徳島香央里, 神保圭佑, 柏木項介, 永田万純, 丸山紀三子, 伊藤夏希, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 工藤孝広, 清水俊明. 薬剤性ループス(ss-DNA 抗体陽性)2 例の CS と IFX/ADA/GOM/UST/VDZ 導入例における ANA 値の検討. 第 48 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(松本). 2021.10.2.
  - ・ 飯坂健太, 神保圭佑, 齋藤真人, 吉田志保, 細井賢二, 稲毛英介, 越智崇徳, 遠藤周, 安部信平, 鈴木光幸, 春名英典, 工藤孝広, 山高篤行, 清水俊明. 消化管出血を合併し腸管切除にて止血し得た小腸型 Crohn 病の 1 例. 第 669 回日本小児科学会東京都地方会講話会, Web 開催. 2021.1.9.
  - ・ 清水俊明. 小児 IBD の特性と成人診療医へのトランジションの現状と課題. 第 22 回臨床消化器病研究会, 東京. 2022.7.30
  - ・ Miura M, Shimizu H, Saito D, Miyoshi J,

- Matsuura M, Kudo T, Hirayama D, Yoshida M, Arai K, Iwama I, Nakase H, Shimizu T, Hisamatsu T. Observational study on epstein-barr viral infection status and thiopurine use by age group in patients with inflammatory bowel disease in Japan. 17th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation, Web 開催. 2022.2.16.
- Nambu R, Arai K, Kudo T, Murakoshi T, Kunisaki R, Mizuochi T, Kato S, Kumagai H, Inoue M, Ishige T, Saito T, Noguchi A, Yodoshi T, Hagiwara S, Iwata N, Nishimata S, Kakuta F, Tajiri H, Hiejima E, Toita N, Mochizuki T, Shimizu H, Iwama I, Hirano Y, Shimizu T, JPIBD-R. Clinical course of pediatric severe ulcerative colitis in the real world: Multicentered prospective cohort study in Japan. 10th Annual Meeting of the Asian Organization for Crohn's and Colitis, Web 開催. 2022.6.18
  - Ito N, Kudo T, Eguchi H, Sekiguchi R, Jimbo K, Takeuchi I, Arai K, Ishige T, Okazaki Y, Shimizu T. Elucidation of the pathogenesis of very early onset IBD with genetic analysis for the establishment of differential diagnosis techniques. The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Web 開催. 2022.6.18
  - Ito N, Kudo T, Eguchi H, Sekiguchi R, Jimbo K, Takeuchi I, Arai K, Ishige T, Okazaki Y, Shimizu T. Elucidation of the pathogenesis of monogenic IBD with genetic analysis for the establishment of differential diagnosis techniques. 6th International Symposium on Paediatric Inflammatory Bowel Disease, Edinburgh, Scotland. 2022.9.8
  - Nishizawa T, Ishige T, Arai K, Shimizu H, Iwama I, Nambu R, Kunisaki R, Mizuochi T, Murakoshi T, Saito T, Kato S, Kudo T, Iwata N, Inoue M, Yodoshi T, Hagiwara S, Toita N, Tajiri H, Mochizuki T, Kakuta F, Kumagai H, Noguchi A, Sasaki M, Nishimata S, Aomatsu T, Hirano Y, Shimizu T. Analysis of the actual use of enteral nutrition therapy for childhood-onset Crohn's disease using the Japanese paediatric inflammatory bowel disease registry: Final report. 6th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease, Edinburgh, Scotland. 2022.9.9
  - Ishige T, Arai K, Shimizu H, Iwama I, Nambu R, Kunisaki R, Mizuochi T, Murakoshi T, Saito T, Kato S, Kudo T, Iwata N, Inoue M, Yodoshi T, Hagiwara S, Toita N, Tajiri H, Mochizuki T, Kakuta F, Kumagai H, Noguchi A, Sasaki M, Nishimata S, Aomatsu T, Hirano Y, Shimizu T. Treatments received within 6 months after diagnosis of pediatric crohn's disease: Analysis of the Japanese pediatric inflammatory bowel disease registry. 6th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease, Edinburgh, Scotland. 2022.9.9
  - 南部隆亮, 新井勝大, 工藤孝広, 村越孝次, 国崎玲子, 水落建輝, 加藤沢子, 熊谷秀規, 井上幹大, 石毛崇, 齋藤武, 野口篤子, 吉年俊文, 萩原真一郎, 岩田直美, 西亦繁雄, 角田文彦, 田尻仁, 日衛嶋栄太郎, 戸板成昭, 望月貴博, 清水泰岳, 岩間達, 平野友梨, 清水俊明, 日本小児 IBD レジストリ研究グループ. 日本小児 IBD レジストリ研究 2022 重症小児 UC の治療と予後. 第 22 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2022.2.6
  - 井上幹大, 齋藤武, 村越孝次, 国崎玲子, 南部隆亮, 岩間達, 角田文彦, 清水泰岳, 石毛崇, 加藤沢子, 水落建輝, 熊谷秀規, 野口篤子, 工藤孝広, 田尻仁, 岩田直美, 萩原真一郎, 吉年俊文, 西亦繁雄, 日衛嶋栄太郎, 戸板成昭, 望月貴博, 平野友梨, 清水俊明, 新井勝大. 日本小児 IBD レジストリ研究報告 2022: 手術症例の

- 検討. 第 22 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2022.2.6
- ・ 新井喜康, 神保圭佑, 遠藤佳子, 日比生武蔵, 戸田方紀, 丸山起三子, 永田万純, 柏木項介, 徳島香央里, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 工藤孝広, 清水俊明. 初回の生物学的製剤として Ustekinumab を選択した Crohn 病例に関する検討. 第 22 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2022.2.6
  - ・ 伊藤夏希, 京戸玲子, 神保圭佑, 工藤孝広, 清水俊明, 新田和広, 江口英孝, 岡崎康司, 竹内一朗, 新井勝大, 石毛崇. 超早期発症炎症性腸疾患 (VEO-IBD) の病態解明・鑑別診断技術の確立を目指した遺伝学的解析研究. 第 22 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2022.2.6
  - ・ 徳島香央里, 神保圭佑, 遠藤佳子, 日比生武蔵, 戸田方紀, 柏木項介, 永田万純, 丸山紀三子, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 吉村良子, 丘逸宏, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 工藤孝広, 清水俊明. インフリキシマブが原因となった抗 ss-DNA 抗体陽性薬剤誘発性ループス 2 例と当科における生物学的製剤導入例の抗 DNA 抗体価に関する検討. 第 22 回日本小児 IBD 研究会, Web 開催. 2022.2.6
  - ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. 全エクソーム解析により検出された ATF6B 遺伝子の生殖細胞系列バリエーションの超早期発症炎症性腸疾患への関与. 第 5 回日本免疫不全・自己炎症学会 総会・学術集会, Web 開催. 2022.2.11
  - ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. 超早期発症炎症性腸疾患における SLCO2A1 遺伝子の生殖細胞系列バリエーションならびにエピジェネティクス変化の関与. 第 125 回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催 (郡山). 2022.4.16
  - ・ 徳島香央里, 神保圭佑, 遠藤佳子, 戸田方紀, 柏木項介, 永田万純, 丸山紀三子, 伊藤夏希, 新井喜康, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 幾瀬圭, 工藤孝広, 清水俊明. IFX による抗 ss-DNA 抗体陽性薬剤誘発性ループスの 2 例と生物学的製剤導入例の抗 DNA 抗体価に関する検討. 第 125 回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催 (郡山). 2022.4.17
  - ・ 井上幹大, 齋藤武, 村越孝次, 水落健輝, 清水俊明, 新井勝大. 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究報告 手術症例の検討. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 東京. 2022.5.20
  - ・ 柏木項介, 神保圭佑, 鈴木光幸, 永田万純, 徳島香央里, 伊藤夏希, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 工藤孝広, 清水俊明. IBD 患児における新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価の検討. 第 49 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催 (東京). 2022.9.30
  - ・ 清水泰岳, 新井勝大, 水落建輝, 虻川大樹, 清水俊明. 小児栄養消化器肝臓領域のガイドライン・診療指針の現状 小児クローン病の治療指針改訂. 第 49 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催 (東京). 2022.10.1
  - ・ 水落建輝, 虻川大樹, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明. 小児栄養消化器肝臓領域のガイドライン・診療指針の現状 小児潰瘍性大腸炎の治療指針 最新改訂版のポイント. 第 49 回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催 (東京). 2022.10.1
  - ・ 南部隆亮, 新井勝大, 工藤孝広, 立花奈緒, 水落建輝, 加藤沢子, 熊谷秀規, 井上幹大, 石毛崇, 齋藤武, 岩間達, 清水俊明. 小児潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブ中止症例の予後 日本小児 IBD レジストリ研究. 第 49 回日

- 本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催 (東京). 2022.10.1
- ・ 治山芽生, 南部隆亮, 萩原真一郎, 高木祐吾, 水落建輝, 西澤拓哉, 石毛崇, 清水泰岳, 工藤孝広, 新井勝大, 清水俊明, 岩間達. 小児期発症クローン病に併発する Orofacial granulomatosis(OFG)の臨床的特徴と治療法の検討:多機関共同研究. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1
  - ・ 佐藤真教, 時田万英, 立花奈緒, 工藤孝広, 清水俊明, 細井賢二. 当院における Crohn 病の肛門病変の検討. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1-2.
  - ・ 吉村良子, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 関口玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明. 小児期発症炎症性腸疾患における便中バイオマーカーの検討. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1
  - ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 新井喜康, 関口玲子, 宮田恵理, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. 炎症性腸疾患における全エクソーム解析により検出された SLC02A1 遺伝子のバリエーションとエピジェネティクス変化の関与. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1
  - ・ 徳島香央里, 神保圭佑, 遠藤佳子, 日比生武蔵, 戸田方紀, 柏木項介, 永田万純, 丸山起三子, 伊藤夏希, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 工藤孝広, 清水俊明. インフリキシマブが原因となった抗 ss-DNA 抗体陽性薬剤誘発性ループス 2 例と当科における生物学的製剤導入例の抗 DNA 抗体価に関する検討. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1
  - ・ 日比生武蔵, 神保圭佑, 遠藤佳子, 丸山起三子, 伊藤夏希, 新井喜康, 幾瀬圭, 越智崇徳, 工藤孝広, 明本由衣, 山高篤行, 清水俊明. VEO-IBD と鑑別を要した食物蛋白誘発胃腸症に腸管穿孔を合併した 1 例. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1
  - ・ 福田茂孝, 神保圭佑, 日比生武蔵, 丸山起三子, 伊藤夏希, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 工藤孝広, 柏木項介, 清水俊明. チオプリン製剤による汎血球減少症を呈したヘテロの NUDT15 遺伝子変異を有する潰瘍性大腸炎の 1 例. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.1
  - ・ 西澤拓哉, 石毛崇, 新井勝大, 井上幹大, 加藤沢子, 角田文彦, 工藤孝広, 齋藤武, 佐々木美香, 清水泰岳, 南部隆亮, 清水俊明. 日本小児 IBD レジストリにおける小児期発症クローン病に対する栄養療法の使用実態 最終報告. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会, ハイブリッド開催(東京). 2022.10.2
  - ・ 日比生武蔵, 新井喜康, 神保圭佑, 福田茂孝, 遠藤佳子, 柏木項介, 永田万純, 丸山起三子, 徳島香央里, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 工藤孝広, 清水俊明. 直腸周囲膿瘍の治療方針決定に経会陰超音波検査による Point-of-care ultrasound(POCUS)が有用であった Crohn 病の 1 例. 第7回日本小児超音波研究会, Web 開催. 2022.11.20
  - ・ 横山孝二, 山本陽子, 南部隆亮, 萩原真一郎, 虻川大樹, 水落建輝, 工藤孝広, 佐渡智光, 岩田直美, 石毛崇, 岩間達, 熊谷秀規, 新井勝大, 清水俊明. 小児炎症性腸疾患患者におけるベドリズマブの有効性と安全性の検討:多施設共同研究. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリット(大阪). 2022.11.25
  - ・ 西田大恭, 石毛崇, 新井勝大, 清水泰岳, 岩間達, 南部隆亮, 国崎玲子, 水落建輝, 村越孝次, 齋藤武, 加藤沢子, 工藤孝広, 岩田直美,

- 井上幹大, 吉年俊文, 萩原真一郎, 戸板成昭, 田尻仁, 望月貴博, 角田文彦, 熊谷秀規, 野口篤子, 佐々木美香, 西亦繁雄, 青松友規, 平野友梨, 清水俊明. 小児クローン病における生物学的製剤の長期継続率: 日本小児 IBD レジストリ研究. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリット(大阪). 2022.11.25
- ・ 南部隆亮, 新井勝大, 工藤孝広, 立花奈緒, 国崎玲子, 水落建輝, 加藤沢子, 熊谷秀規, 井上幹大, 石毛崇, 齋藤武, 野口篤子, 吉年俊文, 萩原真一郎, 岩田直美, 西亦繁雄, 角田文彦, 田尻仁, 日衛嶋栄太郎, 戸板成昭, 望月貴博, 清水泰岳, 岩間達, 平野友梨, 清水俊明. 小児潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブ中止症例の経過と予後: 日本小児 IBD レジストリ研究. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリット(大阪). 2022.11.25
  - ・ 横山孝二, 山本陽子, 南部隆亮, 萩原真一郎, 虻川大樹, 水落建輝, 工藤孝広, 佐渡智光, 岩田直美, 石毛崇, 岩間達, 熊谷秀規, 新井勝大, 清水俊明. 小児炎症性腸疾患患者におけるベドリズマブの有効性と安全性の検討: 多施設共同研究. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリット(大阪). 2022.11.25
  - ・ 時田万英, 清水泰岳, 竹内一朗, 清水俊明, 新井勝大. 小児 IBD センターにおける小児期発症潰瘍性大腸炎患者に対するゴリムマブの使用経験. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリット(大阪). 2022.11.25
  - ・ 石毛崇, 新井勝大, 清水泰岳, 岩間達, 南部隆亮, 国崎玲子, 水落建輝, 村越孝次, 齋藤武, 加藤沢子, 工藤孝広, 岩田直美, 井上幹大, 吉年俊文, 萩原真一郎, 戸板成昭, 田尻仁, 望月貴博, 角田文彦, 熊谷秀規, 野口篤子, 佐々木美香, 西亦繁雄, 青松友規, 平野友梨, 清水俊明. 小児クローン病患者に対する診断後半年以内の治療内容: 小児 IBD レジストリ解析. 第 13 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, ハイブリット(大阪). 2022.11.26
  - ・ 伊藤夏希, 工藤孝広, 柏木項介, 徳島香央里, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 関口玲子, 宮田恵理, 北村裕梨, 幾瀬圭, 神保圭佑, 清水俊明, 江口英孝, 岡崎康司. 小児期発症炎症性腸疾患における DNA メチル化による SLCO2A1 遺伝子の発現抑制の関与. 第 67 回日本人類遺伝学会, 横浜. 2022.12.15
  - ・ 清水俊明. 小児の炎症性腸疾患 体や心の発達にも影響. 東京新聞(夕刊)2022 年 6 月 15 日. 2022
  - ・ 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳, 熊谷秀規, 石毛崇, 虻川大樹, 新井勝大, 井上幹大, 内田恵一, 工藤孝広, 岩間達, 国崎玲子, 渡辺憲治, 長沼誠, 中村志郎. 小児潰瘍性大腸炎治療指針(2022 年 3 月改訂). 潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針 令和 3 年度改訂版. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(久松班) 令和 3 年度分担研究報告書. 23-29. 2022
  - ・ 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳, 熊谷秀規, 石毛崇, 虻川大樹, 新井勝大, 井上幹大, 内田恵一, 工藤孝広, 岩間達, 国崎玲子, 渡辺憲治, 長沼誠, 中村志郎. 小児クローン病治療指針(2022 年 3 月改訂). 潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針 令和 3 年度改訂版. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(久松班) 令和 3 年度分担研究報告書. 47-51. 2022
- H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む)
1. 特許取得  
無し。
  2. 実用新案登録  
無し。
  3. その他